



市外史跡探訪

「田川市石炭・歴史博物館」の見学にちなんで

福岡県の昔ばなし 西日本新聞参照

(筑豊地方) 「のそん弁当」

宮崎雅美

# 筑豊は日本一の石炭産地 坑夫のお話です。



① その昔、筑豊は日本一の石炭の産地でした。石炭は、深い地下から掘り出しました。その作業は危険に満ちたもので、坑夫達は古い言い伝えをよく守っていました。

坑内で最も恐れられていたのは、坑内の天井が落ちてくる落盤、そしてガス爆発でした。ガス爆発を予見するには、坑内の石炭ガス充滿密度をいち早く知ることでした。

その手段の一つとして、坑夫達は、鳥かごにカナリヤを入れて、一緒に坑内に入りました。カナリヤは、ガスにとっても敏感な鳥で、ガスの臭がすると、けたたましく鳴くからです。

また、坑夫達は、坑内のネズミも大切にしました。坑内のネズミは、ガス爆発や突然地下水が吹き出す（水非常）という事故が起こる前、必ず、「チュウ、チュウ、チュウ」と、仲間を呼び合い駆けずり回り、一斉に坑外に走り出していくからです。



② ネズミがにわかに騒ぎ始めると、坑夫達は、「おーい。ネズミが上がりよるぞ。」と、大声でみんなに知らせ、直ちに地上へと逃げ出しました。

ちよつと困ったこともありました。坑内のネズミは、よく坑夫達の弁当を盗み食いしました。

ネズミは、坑夫達にとって命に関わる大切な生き物です。殺すことなどできません。

それをいいことに、ネズミ達は、支柱にかけた弁当を 狙ってくるのです。

# のそん

気に  
くわない。

坑夫の  
言葉です。

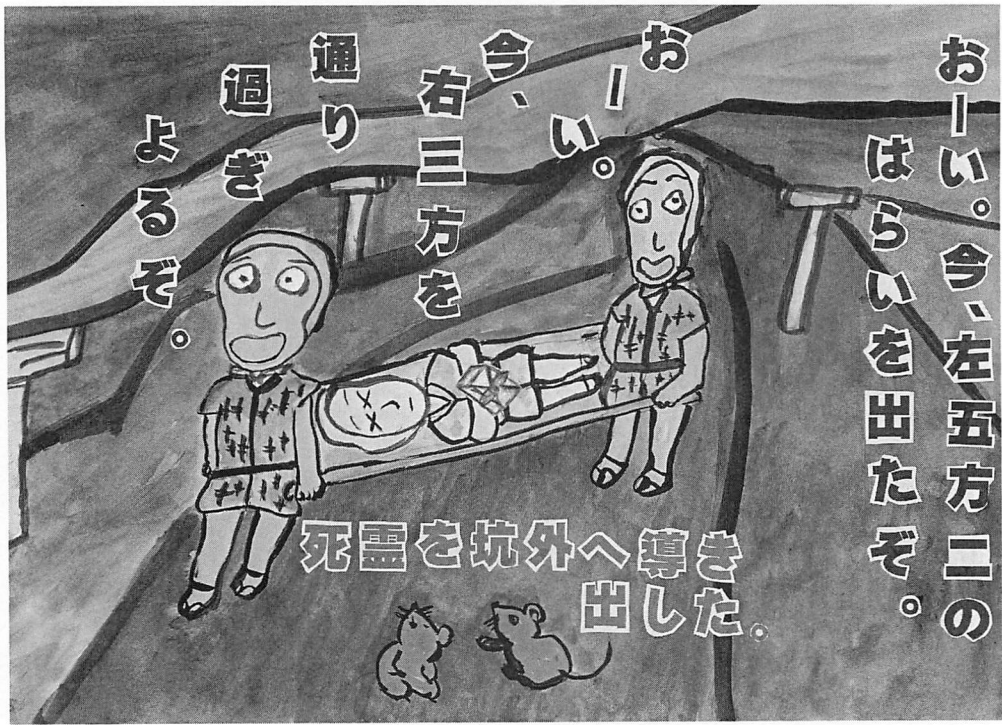
坑内のネズミを  
殺さない。

のそん弁当の  
中身はもって  
上がらない。



③ 坑夫達が弁当を食べている時も、「チュウ、チュウ、チュウ」と、おこぼれをせがんできました。そうした時も、坑夫達はネズミを追っ払ったり、蹴ったりすることはしませんでした。もしも、そんなことをしたら（ネズミに抑えられる）と言って、仕事や寝ている時などに、急に体が効かなくなつて、胸が締め付けられもがき苦しむというのです。ですから、坑夫達は、（坑内のネズミは殺さない）（「のそん弁当」の中身はもって上がらない）といったしきたりを頑固に守りました。

「のそん」というのは、気分が乗らない。気に食わない。といった坑夫の言葉です。「のそんする」というのは、気分が乗らないから仕事をやめる。といった意味に使われました。一旦、坑内に入って、弁当を食べて残す時は「のそん」します。食べたくないもの、残した中身は必ず、ネズミの為に捧げるのです。ネズミの為に、気に入らなくても、気に入らないものは、「のそん」しました。もし、その掟を破って「のそん弁当」を坑外へ持って上がると、「貴様、なして「のそん弁当」持って上がるとか。」と、仲間達に罵倒され、寄つてたかつて袋叩きにありました。ですから、坑夫達は、どんなことがあっても、「のそん弁当」は坑外に持つて上がることはしませんでした。



④ 万が一、仲間の坑夫達が災害にあつて、坑内で亡くなつたりすると、必ず、その坑夫の弁当の中身も坑内に残し、「のそん」しました。

空になった弁当箱を 遺体の上に乗せて担ぎ出しました。坑外に出る時、死者の魂が坑内に残つて迷わないように、「おーい。今、左五方の二はらいをでたぞ。」「おーい。今、右三方を通り過ぎよるぞ。」と、大声で叫びながら、死霊を坑外へと導き出したのでした。

かつて、筑豊の炭田は、日本一・繁栄の礎であり、シンボルでした。そこには、こうした生と死にまつわる沢山の逸話が語り伝えられています。

終わり